１　調査経過

興福寺では「興福寺境内整備構想」（1998 年）にもとづき、寺観の復元・整備が進められている。奈良文化財研究所（以下、奈文研）では 1998 年以来、整備に必要な情報を得るための発掘調査（中金堂院、南大門、北円堂院、西室、中室、経蔵、鐘楼）を継続しておこなってきた。今回もその一環として、鐘楼および東金堂院において、2020 年度から 2022 年度の 3 ヵ年にわたって発掘調査をおこなった（第 1 表）。

調査区は鐘楼と東金堂院に計 6 ヵ所設定した（第 1 図）。鐘楼では 2015 年度に鐘楼基壇の一部を発掘調査したが（『興福寺 第 1 期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅷ』2015 年、以下『概報Ⅷ』）、鐘楼の規模と構造の解明を目的として、2020 年度には 559 次Ｄ区とＥ区を含む基壇全面の 345㎡を調査した。調査は 7 月 1 日より開始し、10 月 7 日に終了した。

東金堂院の調査では、2020・2021 年度に 2 つずつ、2022 年度に 1 つの調査区を設定した。2020 年度は、五重塔の西正面に開く門とそれに接続する西面回廊を含む 625 次北区 136㎡、南面を区画する築地塀の構造をあきらかにするための 625 次南区 33㎡を設定した。調査面積の合計は 169㎡である。調査は 7 月 2 日より開始し、10 月 15 日に終了した。

2021 年度には、東金堂の西正面に開く門とそれに取り付く西面回廊の規模と構造をあきらかにすることを目的とする 640 次北区 260㎡、五重塔の南東で南面築地塀の解明を目的とする 640 次南区 12㎡を設定した。調査面積の合計は 272㎡である。調査は 2021 年 7 月 13 日に開始し、11 月 4 日に終了した。

2022 年度の 649 次調査は、北面回廊の規模と構造をあきらかにし、東金堂院の規模を把握することを目的として、東金堂の北東約 43 ｍの位置に 335㎡の調査区を設定した。このうち、12㎡が既調査区（『興福寺防災施設工事・発掘報告書』1978 年、以下『防災報告』）と重複している。調査は 7 月 6 日より開始し、11 月 17 日に終了した。

第 1 表　調査経過

2020年度（625次）

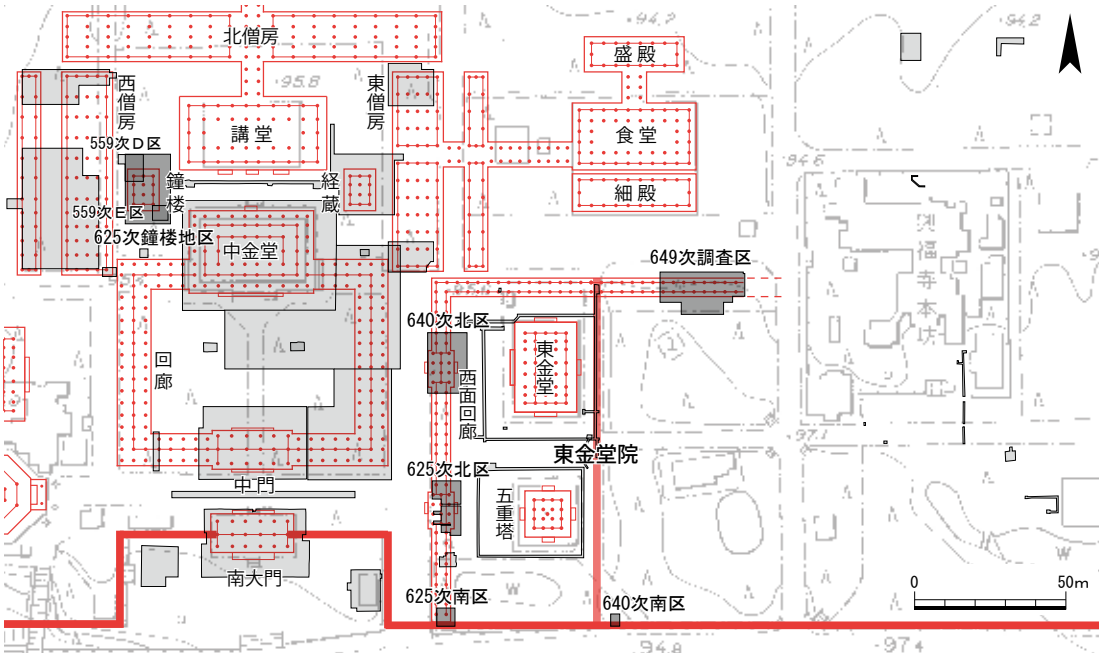
6 月 26 日	鐘楼縄張り
6 月 29 日	北区、南区縄張り
7 月 1 日	鐘楼重機掘削開始（～7月27日）
	北区、南区手掘り調査開始
7 月 2 日	鐘楼手掘り調査開始
7 月 8 日	北区、南区重機掘削開始（～7月29日）
7 月 28 日	鐘楼写真撮影
8 月 20 日	鐘楼炭化材サンプル採取
8 月 26 日	南区拡張区重機掘削開始（～8月27日）
9 月 4 日	南区写真撮影
9 月 9 日	現場検討会、北区写真撮影
9 月 10 日	全区写真撮影（ハイライダー）
9 月 16 日	鐘楼写真撮影
9 月 18 日	石材鑑定
9 月 25 日	記者発表
9 月 28 日	現地見学会（来場者606名）
9 月 29 日	鐘楼写真撮影
	鐘楼土壌サンプル採取（～9月30日）
10月 1 日	南区写真撮影
10月 2 日	鐘楼砂撒き完了
	北区土壌サンプル採取（～10月7日）
10月 7 日	南区写真撮影
10月 15 日	全区埋め戻し、砂撒き完了、調査終了

2021年度（640次）

6 月 9 日	現地協議、北区縄張り
7 月 13 日	北区重機掘削開始（～8月6日）
7 月 14 日	北区手掘り調査開始
7 月 29 日	南区縄張り
8 月 24 日	北区写真撮影
9 月 16 日	北区写真撮影
9 月 21 日	北区写真撮影
9 月 29 日	北区現場検討会
10月 4 日	南区重機掘削
	南区手掘り調査開始
10月 6 日	記者発表
10月 8 日	南区写真撮影
10月 9 日	現地見学会（来場者949名）
10月 12 日	南区写真撮影
10月 13 日	南区写真撮影
10月 15 日	北区写真撮影（ハイライダー）
10月 19 日	南区写真撮影
10月 20 日	石材鑑定
10月 22 日	南区写真撮影
10月 27 日	「花の松」の石碑基壇の解体立会
	北区砂撒き開始（～11月2日）
10月 28 日	北区写真撮影
10月 29 日	北区写真撮影
	南区砂撒き
11月 1 日	南区埋め戻し完了
11月 4 日	北区埋め戻し完了、調査終了

2022年度（649次）

6 月 23 日	現地協議、地中レーダー探査
6 月 28 日	縄張り
6 月 29 日	調査区内フェンス基礎抜き立会
7 月 6 日	重機掘削開始（～7月13日）
7 月 7 日	手掘り調査開始
8 月 17 日	拡張区重機掘削開始（～9月5日）
8 月 24 日	境内整備委員会視察
9 月 27 日	写真撮影（ハイライダー）
10月 3 日	現場検討会
10月 6 日	石材鑑定
10月 13 日	記者発表
10月 15 日	現地見学会（来場者1,120名）
10月 20 日	写真撮影
10月 24 日	砂撒き開始（～11月4日）
10月 25 日	写真撮影
10月 27 日	写真撮影
	土壌サンプル採取（～11月2日）
11月 2 日	写真撮影
11月 17 日	埋め戻し完了、調査終了



第１図　調査区位置図　1:2500

第２表　興福寺鐘楼・東金堂・五重塔略年表

和　暦	西　暦	鐘　楼	東金堂	五重塔	備　考	典　拠
	720 頃	創建				『興福寺流記』
神亀 3	726		創建			『興福寺流記』
天平 2	730			創建		『興福寺流記』
元慶 2	878	焼失				『日本三代実録』
元慶 5	881	再建			鐘楼を造る料を充てる	『日本三代実録』
寛仁 元	1017		焼失	焼失		『御堂関白記』『日本紀略』『扶桑略記』ほか
長元 4	1031		再建	再建		『興福寺流記』『日本紀略』『小右記』
永承 元	1046	焼失	焼失	焼失ヵ		『興福寺流記』『造興福寺記』『扶桑略記』ほか
永承 3	1048	再建	再建		諸堂供養、東金堂手斧始	『造興福寺記』『扶桑略記』
康平 3	1060	焼失	焼失ヵ	焼失ヵ		『康平記』『扶桑略記』『三会定一記』
治暦 3	1067	再建	再建ヵ		東金堂供養	『扶桑略記』『興福寺流記』
承暦 2	1078			再建		『水左記』『三会定一記』
永長 元	1096	焼失				『中右記』『後二条師通記』ほか
康和 5	1103	再建				『中右記』
治承 4	1180	焼失	焼失	焼失		『玉葉』『三会定一記』
養和 元	1181	再建				『養和元年記』ほか
寿永 元	1182		再建			『中臣祐重記』
	1200 以降	再建				『春日大社文書』16
建仁 元	1201			再建ヵ		『春日神社文書』所収「源通親書状礼紙」
元久 3	1206			再建	回廊も竣工	『三長記』
建治 3	1277	焼失				『興福寺略年代記』ほか
弘安 8	1285	再建				『三会定一記』
嘉暦 2	1327	焼失				『大乗院日記目録』ほか
文和 5	1356		焼失	焼失		『嘉元記』『細々要記抜書』『法隆寺別当次第』『園太暦』
応安 3	1370		再建			『細々要記抜書』
嘉慶 2	1388			再建ヵ		『細々要記抜書』
応永 5	1398	（再建年不明）			鐘楼・経蔵は造立	『寺門事条々聞書』
応永 18	1411		焼失	焼失		『東寺執行日記』『大乗院日記目録』『興福寺炎上再建記』『興福寺別当次第』
応永 22	1415		再建			『古記部類』『興福寺東金堂記』『興福寺炎上再建記』
応永 33	1426			再建		『古記部類』
享保 2	1717	焼失				『南都年代記』

参考文献　太田博太郎『南都七大寺の歴史と年表』岩波書店、1979。
藪中五百樹「奈良時代に於ける興福寺の造営と瓦」『南都仏教』64、1990。
藪中五百樹「平安時代に於ける興福寺の造営と瓦」『仏教芸術』194、1991。
藪中五百樹「鎌倉時代に於ける興福寺の造営と瓦（上）」『仏教芸術』257、2001。
藪中五百樹「南北朝・室町時代に於ける興福寺の造営と瓦」『立命館大学考古学論集Ⅱ』2001。
藪中五百樹「安土桃山・江戸時代に於ける興福寺の造営と瓦」『帝塚山大学考古学研究所研究報告』Ⅵ、2005。